

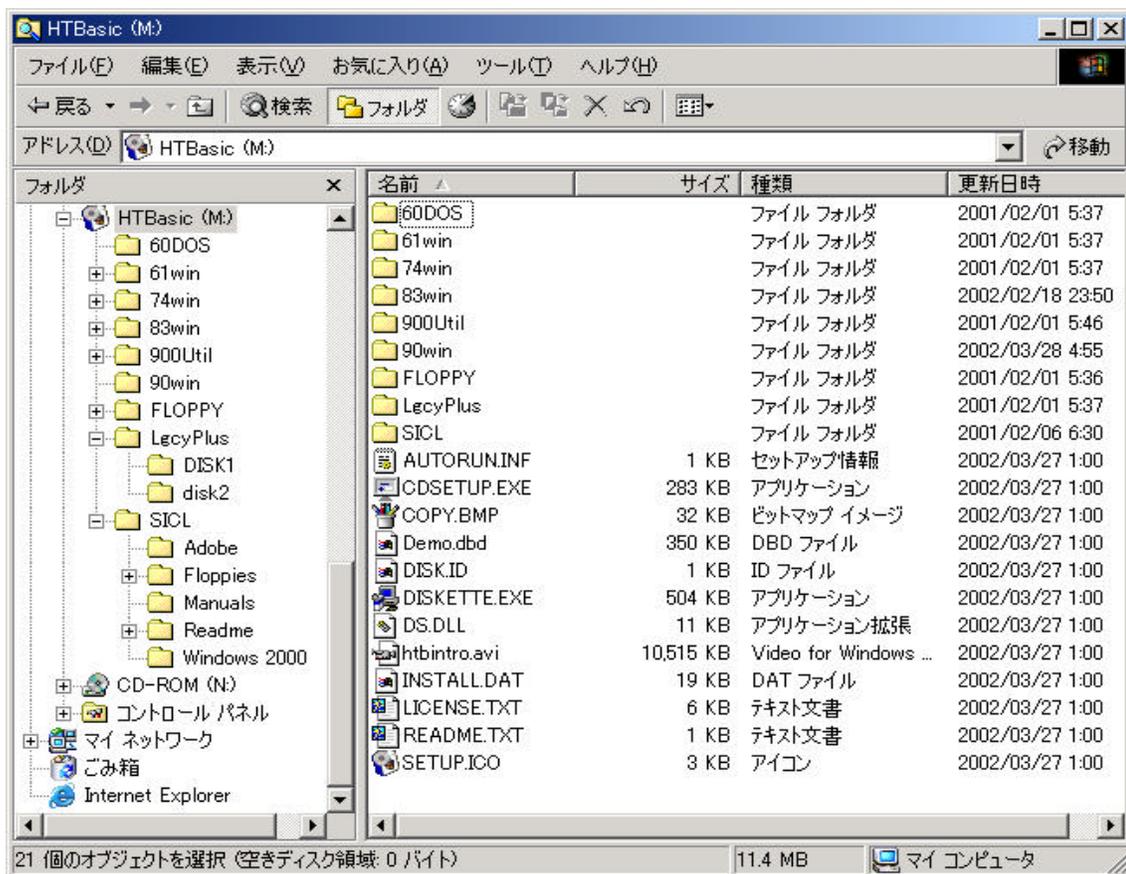
HTBasic 9 for Windows Rel.9.1

(Release note : Readme.txt)

この資料は、HTBasic for Windows Release Notes Release 9.1からHTBasic for Windowsの新しい仕様/特長と改善ポイントをご紹介します。

1. CD-ROMの収録内容の変更

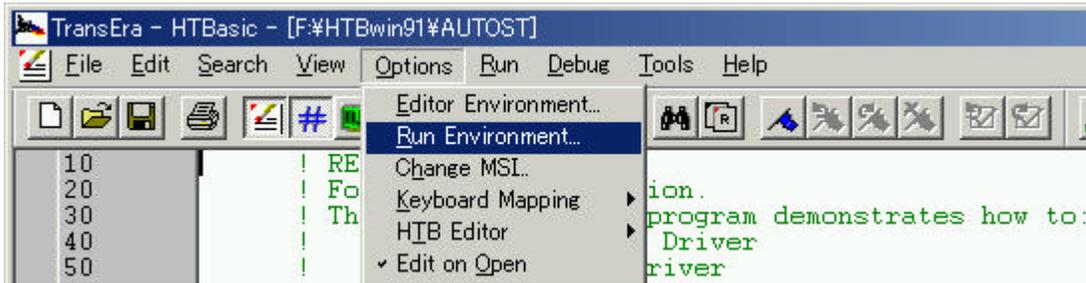
- 1) 9.1の収録フォルダー名は、90winのままです
- 2) SICLドライバのバージョンが変わりました-----> L 02.00.01



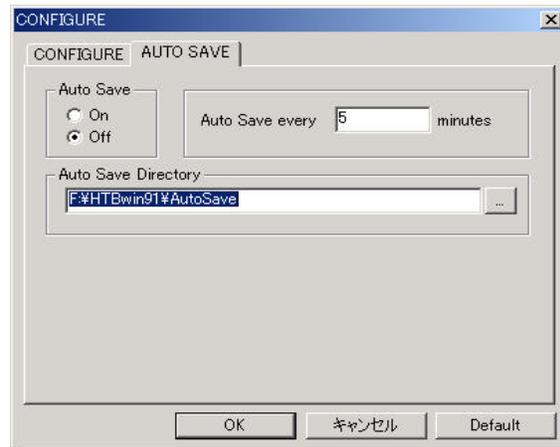
2. 変更点

- 1) 自動セーブ機構が追加されました

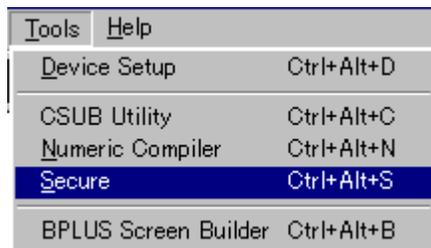
Options | Run Environment ダイアログで、自動セーブ新しいタブで設定することにより、プログラムの自動セーブ機能を提供します。(プログラムが表示されている状態、すなわち EDIT モードで設定します)



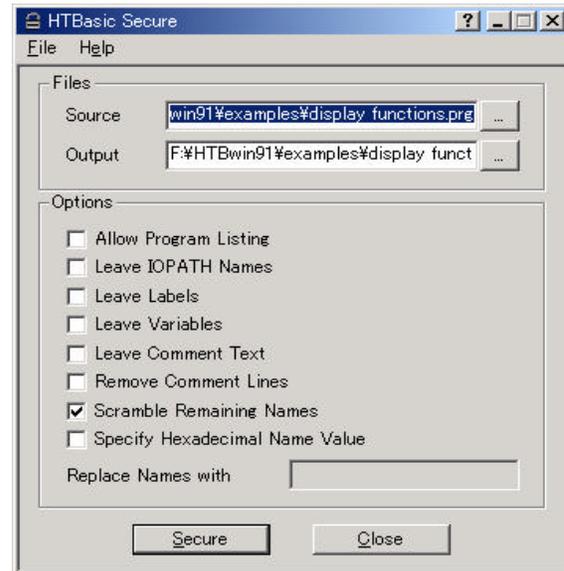
オプションは、自動セーブする時間間隔、およびセーブされるディレクトリーを指定します。ファイルは“AutoSave”拡張子付きのファイル名でセーブされます。注)この例では、d:\¥HTBwin91¥AutoSave ディレクトリの下に作成されます



- 2) セキュアユーティリティ(今まで HTBasic Workshop のみ可能であった)は、メニュー上の“Tool”から選択し、使用できるようになりました。

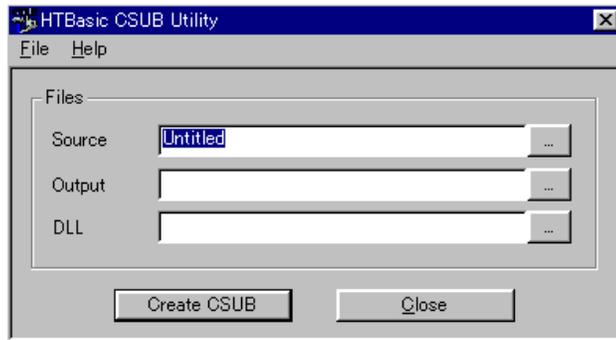


セキュアユーティリティは、HTBasicの.prgファイルを配布のためにリバースエンジニアリングを行い実行上支障のない付随したプログラム情報を除去し、使用していない管理テーブルメモリ圧縮しより小さくします。またプログラムリストを覗けないようにします。



- 3) CSUB ツールキット (今まで、HTBasic のアドオン製品として別売) は、メニュー上の “ Tool ” から選択し、使用できるようになりました。

Tools | CSUB Utility



Tools	Help
Device Setup	Ctrl+Alt+D
CSUB Utility	Ctrl+Alt+C
Numeric Compiler	Ctrl+Alt+N
Secure	Ctrl+Alt+S
BPLUS Screen Builder	Ctrl+Alt+B

CSUBツールキットは、HTBasicのためのコンパイルされたサブプログラムを組み込めるようにします。

コンパイルされたサブプログラム、あるいは(すなわち)CSUB、が直接CPUで実行され、すべてのCPU能力、機能を使用できるアクセス権を持ちます。

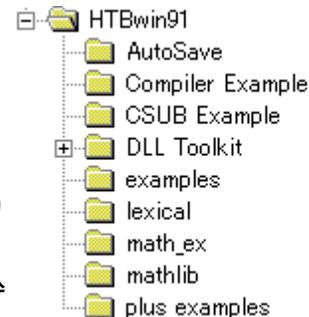
- 4) 高度な数学ライブラリは、今までのように別売のアドオン製品を購入することなくご使用いただけるように、新しいHTBasic パッケージに含まれる用になりました。

HTBasic 数学ライブラリは、HTBasic プログラミング言語ご使用のユーザーにたいし、より高度の数学/信号処理機能による非常に速いバージョンを提供いたします。

ほとんどのこれらのルーチンは、コンパイルされており、同じような他のBASICのサブルーチンより高速に処理をおこないます。

ルーチンは、ユーザのBASICプログラムに組み込まれそのプログラムは、スピードアップします。

またユーザご自身がサブルーチンを書く作業を省きます。

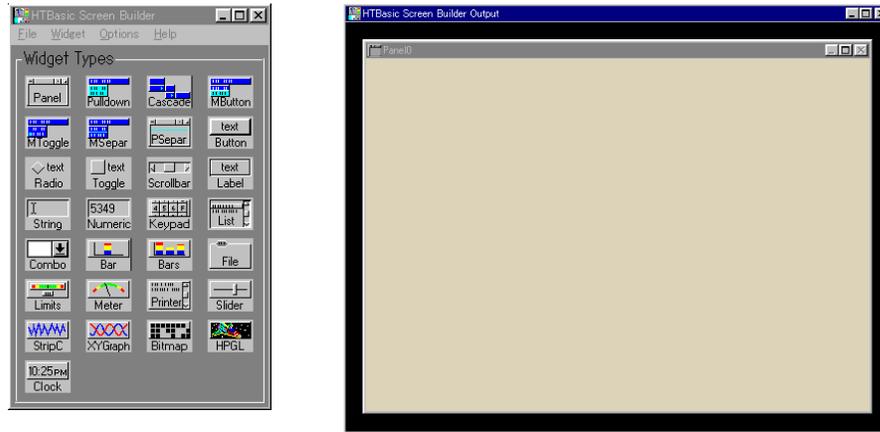


ルーチンは、mathlibフォルダヘインストールされます。そして、それぞれのサンプルプログラムは、math_exフォルダにインストールされます。

- 5) BASIC PLUS

Tool メニューから直接『BASIC PLUS Screen Builder』ユーティリティを実行できるようになりました。

Tools	Help
Device Setup	Ctrl+Alt+D
CSUB Utility	Ctrl+Alt+C
Numeric Compiler	Ctrl+Alt+N
Secure	Ctrl+Alt+S
BPLUS Screen Builder	Ctrl+Alt+B



- テンプレート -

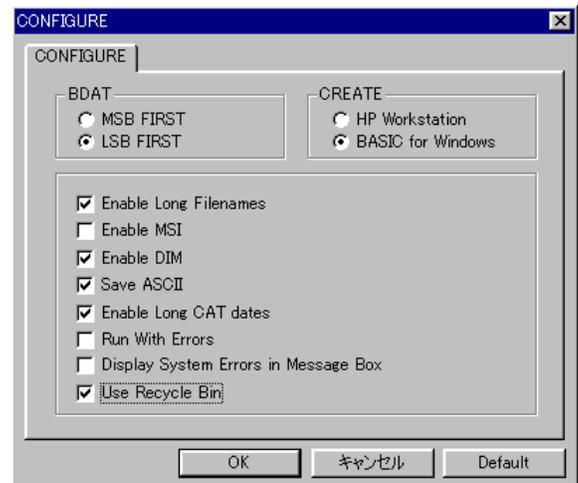
『BASIC PLUS PUSHBUTTON Widget』は、もしプッシュボタン上が全体のテキストを取り扱うほど、十分に広くなくても、テキストは保持します。

『BASIC PLUS Number Dialog』は 8 進モードで実行されている時全ての番号を適切に扱います。

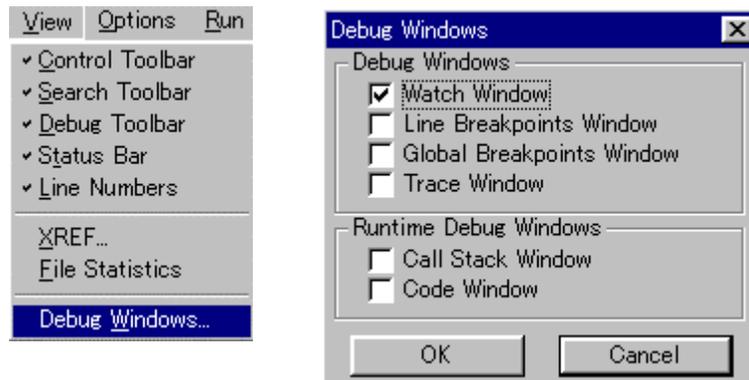
『BASIC PLUS Panel Widget』ではきちんと最小限にされたアイコンを表示されます。

『BASIC PLUS System Widget』では、プログラムで「System Widgets」を終了させるためのシンタックス「ON EVENT @Sys,"SYSTEM CLOSE"」が処理されます。

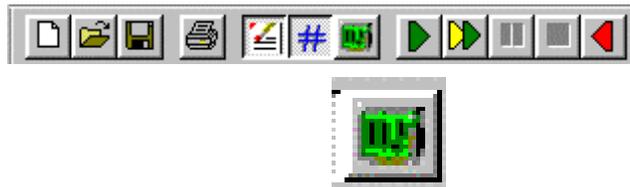
- 6) メニューから Options | Run Environment で永久にファイルを削除しないで PURGE されたファイルを Windows の「ごみ箱」送るという機能と同様なオプションが追加されました。



- 7) 「Debug Watch window」にコピーオプションが付加されました。



- 8) DLL ツールキット
DLL のサンプルプログラムに、現在の Windows username を返す
HTBUserName.dll が追加されました。
DLL ツールキットは、256 文字以上の文字列を返すことができるように改良
されました。
- 9) 「Device Setup Dialog」が一発で表示できるようにアイコンを追加しました。



- 10) 「ON EVENT」呼び出しから、CSUB を呼び出すことを可能とする機能が
付け加えられました。
- 11) プリンター
FileメニューからPrint Program optionを使用することによって、プログラムを
カラーでリストすることが可能になりました。(確認済)
カラープリンターで、白黒表示でダンププリントを行う場合の BW オプションが、
WIN-DUMP ドライバに追加されました。デフォルト・オプションもまた COLOR
に変更となりました。
グレースケールでプリントする場合は、GRAY オプションを使用してください。
ESCAPE PRT,106 はWIN-DUMPドライバでスクリーンの一部をDUMP
するために機能が拡張されました。
DUMP 区域を定義するために、新しいコントロールレジスタならびにステータス
レジスタが追加されました。

12) シリアル・ドライバ

9.0 のリリースで提供された新しい SERIAL ドライバは、LOAD BIN "SERIAL" でロードされた物と Device Setup ダイアログで設定する物は同じ物となりました。SERIAL ドライバを使用して、特定の ISC が設定された COM ポートの名前を返すオプションが追加されました。

シンタックスは、STATUS (lsc,102) です。

13) シリアルポートの ISC でリセットをすると、正しくポー・レートのセットアップ情報を持つ様になりました。今までは、正しくリセットされませんでした。

14) SYSTEM\$

SYSTEM\$("PRINTER NAME")は、現在 PRINTER IS に割り当てられる、現在定義されているドライバ名が返ります。

Windows Display Driver

もしこのドライバが WIN-PRINT ドライバであると、プリンタの設定で付けられたプリンタ名を返します。

Laser Wind Office 204W

PRINTER IS PRT
DISP SYSTEM\$("PRINTER NAME")



15) FUNCTION、およびサブプログラムは、XREF出力で正しく分けられて表示されるようになりました。

16) WAIT ステートメントは、CPU の周波数に影響されないで最適化されています。

17) GLOAD コマンドは、BASIC のスクリーン上で再ロードされたイメージが異なる場所へ正しく再度配置する様に改良されました。

18) Search | Find ->F3

出力ウィンドからの検索で、正しくスクロールされるようになりました。今までは、次を見つけるまでスクロールされませんでした。

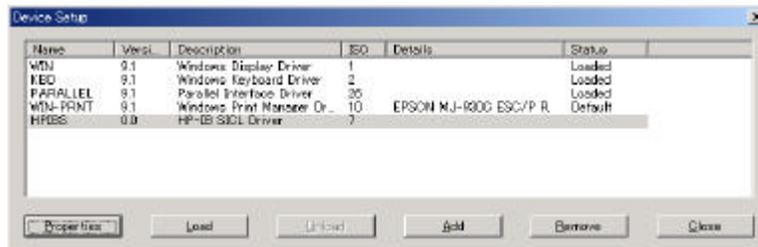
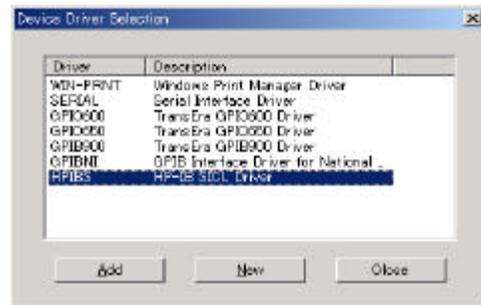
19) ASCII ファイルを読み込んでいるとき、"!"の含まれた行以降の空白行のあとは、空白以外の行も無視されていました。空白行は、安定性のために"!"として編集され空白以外の行も処理されるように改善されました。

20) DISPLAY FUNCTIONSを、Windowsの各国語バージョンのもとできちんと対応できるようにしました。

- 21) TIMEDATE 関数は、9.0 のリリースで取り入れた機能に対し、1 ミリ秒解像度に適合できるように改良されました。この機能は、WindowsNT テクノロジーを使用した OS で対応しています。
- 22) SearchFind
Search | Find メニューでの Match Whole Word (完全一致) と Match Case (ケースの判断) オプションが正常に機能するようになりました。
- 23) GPIB ドライバは、今、複数の登録ユーザーのログインに対応します。以前に、Administrator のみが GPIB ドライバのデフォルト以外のセットアップが可能でした。
- 24) HPIBS ドライバ
HPIBS ドライバでの割り込みは、すべての割り込みタイプにサポートを提供されるように改良されました。
HPIBS ドライバの TIME オプションは、TIMEOUT 条件として持続時間を設定している時に正しく作動します。
BS Properties ダイアログにおけるデフォルトの SICL 名は現在提供されている Agilent SICL パッケージに合わせ、gpib0 に変更されました。(L.02.00.01) デフォルトは、hpib7 から gpib0 に変更となりました。

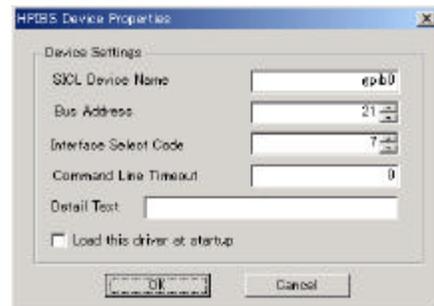


(L.02.00.01)
ADD HPIBS



LOAD HPIBS

プロパティ



25) GPIBNIドライバ

GPIBNI 9.0ドライバを使用し文字列の読み込み時にError 153 "Insufficient data for ENTER"をUSING "K"が使われていない限りうけとっていました。たとえEOIが実は起こらなかったとしても、EOS文字が現れた時に、このドライバはEOIをかえしていました。

USING "K"無しでも正しく終了するように修正されました。

IBNIドライバを使用し、文字列の半ばにラインフィード文字がある文字列を使用しインカミング TRANSFER を実行すると、転送はラインフィード文字を見つけたときに終了しています。正常に行われるように修正されました。

26) GESCAPE PRT,106 がスクリーンの WIN-DUMP ドライバとともに表示域の一部を DUMP するために機能拡張されました。新しい Control レジスタと Status レジスタは、DUMP 域を明示するために加えられました。

以上